

# かわかんネット

発行：一般社団法人 東北河川管理技術研究会事務局

〒980-0802 仙台市青葉区二日町 18-25 シャルム二日町 3F

E-mail: triver@ae.auone-net.jp Tel: 022-398-8831 Fax: 022-398-8832

## 分科会活動

### 東北地方整備局河川部との意見交換会を開催

#### I. 堤防分科会

日時：令和7年12月16日（火） 15時00分～17時00分

場所：東北地方整備局 9F A・B会議室

出席者：東北河川管理技術研究会堤防分科会 11名、  
東北地方整備局 13名



#### 議 事

##### 1. 意見交換

○分科会、●東北地整

(1) 子吉川 現地検討会の報告 (R6.7前線に伴う豪雨 被災箇所) (河川工事課)

○現地検討会での意見として、「左右岸バランス（堤防の安全度）が悪い区間は、堤防強化とともに河道の樹木管理にも注意を払うべき」等の意見があった。

(2) 仙台管内河川堤防のモグラ対策案（仙台河川国道事務所）

○堤防のアルカリ化は雑草以外の種にも影響があるのではないかと。

●雑草に有効であるが、芝への影響を確認しながら対策していく。

○堤防が弱体化した理由（経緯）が分からない。

●古い時代の施工のため、十分に締め固めされていない可能性がある。

○モグラ被害の対策としてセイヨウカラシナも減らす提案も良いが、既に弱体化した堤防は「切り返し」など抜本的な対策が必要である。

(3) 技術者の育成（河川工事課）

○職員が多い時代は、日々の仕事の中で先輩から様々な指導を受けて成長していた。

●今は若手技術者を大切に育成する反面、管理職のやることが増えてきている。

○技術者育成にはOJTが有効的と考えるが、指導する職員が不足している。コンサル協会と若手の連携なども良いのではないかと。



2. 話題提供

(1) 除草剤を活用した堤防植生管理の検討（分科会）

○昔は河川で除草剤を使用することは禁止されていたが、今後は堤防除草のコスト縮減のため、除草剤を活用することも必要である。

●最上川下流・赤川のモニタリング結果を注視していきたい。

(2) 堤防植生管理のあり方（分科会）

○若い職員に業務の意味を伝える必要がある。例えば、除草回数が4回刈りとなった経緯や理由など知らない職員が多いのではないかと。

●技術者を育成する中で伝承していきたい。

## Ⅱ. 樋門・樋管分科会

日 時：令和7年12月22日（月） 15:00～17:00

会 場：東北地方整備局 1F 共用会議室

出席者：東北地方整備局 8名、東北技術事務所 3名  
東北河川管理技術研究会 6名

議 事：

### 1. 情報提供

#### ①河川部 河川管理課

- ・令和7年度の出水など最近の話題
- ・河川部におけるDXの取組について

#### ②東北技術事務所 品質調査課

- ・東北地方の樋門樋管点検と傾向について
- ・体験型堤防実習の現状と可能性

### 2. 討議

#### ①今後の討議テーマ等に関する意見交換

#### ②点検等における現地確認結果の実管理への反映について

### 1. 情報提供

#### ①河川部 河川管理課

- ・令和7年度の出水など最近の話題

○話題として提供された、地震発生時の点検について、震度5弱以上、及び震度4の場合の緊急巡視に変更があるのか。

●震度に伴う点検の実施方法に関しては従前から変更なく、これまで、大津波を含む津浪警報のほか、津浪注意報においても解除されるまで点検出来なかったものを津浪注意報への切替後（発表時）において地震点検要領に基づき安全を確保しつつ、一次点検を実施することを可能としています。

#### ②東北技術事務所 品質調査課

- ・東北地方の樋門樋管点検と傾向について

○函体は杭基礎と柔構造で点検結果の傾向が変わってくると思われるので、整理を分けたほうが良い。

○クラックゲージの設置は良い取り組みであり、事務所点検時の継続的な計測箇所となるので有効である。

○函体の可とう継手が膨れ上がったり、ゴムの劣化により水を吹いたりしている事例があるようだが、ゴムの耐用年数などに着目して点検はしているか？

●段差や開きなどの変状は見ているが、耐用年数などに着目してはいない。

○継手に着目した点検なども行ったほうが良い。

## 2. 討議（2項目合わせて討議を実施）

### ①今後の討議テーマ等に関する意見交換

### ②点検等における現地確認結果の実管理への反映について

- 劣化・健全度の変状は一定年を過ぎるとひどくなる。今まではひび割れに着目して議論してきたが、これからは面的な変状（豆板など）に着目するべきである。ひび割れは線的な劣化だが、断面欠損に係る劣化は面的な欠損となり、事例は少ないものの顕在化することで鉄筋への影響が大きい。全部を修繕することは不可能なため、各変状が樋門樋管や堤防などに与える影響を検討して、優先順位を決めるのが良い。
  
- 東北技術事務所による詳細点検間を実施している事務所毎の点検（巡視による確認を含む）及び、評価方法等にばらつきがあるように感じられる。東北技術事務所が行った詳細点検において指標となる箇所を選定・共有することで、継続的な確認が出来ように調整を行った方が良い。また、次回の東北技術事務所による詳細点検時には、事務所での点検結果を共有することで、より効率的で継続的な点検が可能となる。

### 樋門・樋門分科会における今後の取組について（まとめ）

- 樋門・樋管の点検における DX の推進に関しては、事務所で行っている取組や工夫などを、河川管理に関する各種会議などの場で情報発信をさせて頂くほか、次回分科会で実施状況などを報告させて頂く。
- 樋門・樋管分科会の検討範囲については、事務局からの提案のとおり、基本項目としては樋門・樋管とするが、点検・評価要領に基づき幅広く「河川構造物」とし、水門や堰など機械設備を有する土木施設、及び樋門等構造物周辺の堤防として、幅広い議論が出来るようにすることで了解頂いた。
- 樋門・樋管において継続的な確認が必要な施設に関しては、東北技術事務所が行った詳細点検において指標となる箇所を選定・共有することを検討。また、次回の東北技術事務所による詳細点検時には、事務所での点検結果を共有するよう調整を実施。
- 新たな取り組み（検討議題）として、可とう継ぎ手の点検・評価及び設備の更新判断について検討を進めて行く。検討にあたっては、損傷の原因別（土砂、水、ゴムの劣化、その他複合など）及び、周辺堤防への影響や可とう継ぎ手以外のゴムの劣化のほか、耐用年数なども視野に取り組みの進め方について検討を行う。

以上

### Ⅲ. 河道分科会

日 時：令和7年12月19日（金）16:00-18:00

会 場：東北地方整備局 13階 水災害予報センター

参加者：東北地方整備局 11名、  
東北河川管理技術研究会 9名



#### 河道分科会 議事要約

##### 「東北地方の河川における限界河道の考え方」

●分科会委員、○東北地整

●本日は東北河川管理技術研究会・河道分科会を開催する。今年の分科会のテーマは「東北地方の河川における限界河道の考え方」である。近年は雨の降り方が明らかに変化しており、降雨量の増加により外力が大きくなっている。その外力を河道で受けるのか、洪水調節施設で受けるのかという点について、東北では悩ましい状況にある。本日は忌憚のない意見交換をお願いしたい。

○東北地方では近年、毎年のように出水が発生しており、特に秋田では連続して大きな洪水が起きている。国としても気候変動を踏まえ、河川整備基本方針の見直しを進めており、阿武隈川を皮切りに名取川、北上川水系などで検討を進めている。

その中で「限界河道」という考え方について、本省からも説明を求められているが、東北の河川は都市部とは条件が異なり、その説明に苦慮している。今回はその点について、皆様の意見を伺いたい。

○計画高水の検討においては、河道配分量の増大も検討しているが、北上川や成瀬川では、市街地の密集、橋梁や鉄道などの存在により、現行方針以上に河道配分量を増やすことは技術的・社会的に困難である。

そのため、河道での対応には限界があり、既存ダムや遊水地など洪水調節施設で補う考え方を整理している。

●河道掘削については、事務所によって進み具合に差があると聞いている。うまく進んでいるところは残土処理先を確保できているが、処理先がない場合は非常に苦労している。河道を掘るという議論は、実際には残土処理が最大のネックである。

●限界河道という言葉が、「河道を最大限掘る」という意味で使われることに違和感がある。河川ごとに歴史的な治水の考え方があり、特に北上川上流では、ダム群によって洪水を抑える思想が長年機能してきた。

外力が増えたからといって、安易に河道を拡幅・掘削するのは危険であり、過去の経験を踏まえた判断が必要である。

●過去には「ここを掘ると下流が危険になる」「ここは掘らない方がよい」という経験則があった。計画論だけでなく、そうした歴史的背景を踏まえた説明をしないと、地域の理解は得られない。

○河道掘削にあたっては、防護ラインを確保することを前提としている。確保できない場合は護岸で対応するが、可能な限り防護ラインを確保し、河道だけで完結させようとはしていない。また、河道配分量を増やすことで下流リスクが高まらないよう、流域全体でのバランスを重視している。



●河道掘削が進むと、河川環境への影響は避けられない。河川は生物多様性が高く、最後の生息場となっている場合も多い。今後は、掘削と環境保全をどう両立させるかが重要になる。

○そのため、生物の生息・生育・繁殖の場を対象とした定量的な環境目標を整備計画に位置づける取り組みを進めている。河道掘削を環境改善の機会として捉え、評価・モニタリングしていく考え方である。

●ただし、環境モニタリングにはコストがかかる。実行可能で安価な手法を確立しなければ、現場で継続できない。

●本日の議論から、限界河道とは「これ以上掘れない物理的限界」ではなく、技術的制約、社会的影響、環境保全、流域全体の治水体系を踏まえた現実的な線引きであることが確認された。

今後は、東北の地域特性を踏まえ、この考え方を丁寧に整理し、対外的にも説明していく必要がある。

## IV. ダム管理分科会

日 時：令和7年12月18日（木）

会 場：東北地方整備局 13階 水災害予報センター

参加者：東北地方整備局 13名

東北河川管理技術研究会 19名

### 令和7年度 東北河川管理技術研究会 ダム管理分科会

日時：令和7年12月18日（木）

14:30～17:00

場所：13F 水災害予報センター

#### 次 第

#### I. 開会

#### II. 挨拶

東北河川管理技術研究会      ダム管理分科会 会長      谷田 広樹

東北地方整備局 河川部      河川保全管理官      竹内 久一

#### III. 議事

##### 1. 令和6年度 ダム管理分科会の議事メモについて（確認）

##### 2. 情報提供

##### ① 最近のダム管理の話題について（東北地方整備局 河川部）

（全国の動き、洪水対応、濁水対応（東北総括）、東北独自の施策 等）

##### ② 各ダムでの濁水対応（各ダム管理所）

・令和7年度濁水対応の反省点、問題点、改善点、課題

##### ③ ダム管理分科会の活動状況

##### i. 「摺上川ダム 現地意見交換会」（令和7年2月25日開催）

##### ii. 整備局 主催「ダム管理研修」への講師派遣（令和7年10月22日、23日）

##### 3. 自由討論(テレビ会議を通じて、各管理所長とも意見交換)

##### ① 情報提供「最近のダム管理の話題」「各ダムの濁水対応」に関して質疑応答

##### ② 意見交換

意見交換の視点

##### i. ダムの濁水対応について

- ・最近では、洪水と濁水と極端な現象が発生しており、ともすれば洪水対応に着目す傾向であったが、利水の安全度低下を認識した濁水対策も重要
- ・令和7年度の濁水を踏まえて、改善方策
- ・濁水発生時のダム管理所と河川事務所との役割分担
- ・職員数の少ないダム管理所に多くの業務発生



## 堤防分科会 現地検討会を開催

令和7年9月9日、子吉川・石沢川において秋田河川国道事務所職員と堤防分科会会員による現地検討会が開催されました。

これは令和6年7月25日からの前線に伴う降雨により発生した子吉川・石沢川の堤防決壊と弱体化の災害復旧の経過報告と、堤防開削箇所での現地調査と意見交換を実施したものです。



▲現地視察（堤防決壊のメカニズムの説明）



▲現地視察（堤防決壊箇所の開削部調査）



▲現地視察（越水による”ゆるみ”箇所の切返し状況）



▲意見交換会 堤防分科会長 開会のあいさつ

### [意見交換での主な意見]

- ・決壊箇所は土質に問題はなく築堤履歴も一発施工のようなので、本箇所が特別に弱部という事は無いと考える。
- ・子吉川は直轄延伸された河川のため地質等のデータが不足している。重要な情報なためデータ補完も検討すべき。
- ・「質的な被災」は見た目では判断するのは難しい。MMSなどで堤防高を管理しておけば堤防の変状の判断も可能であり、  
出水時に越水がどこから始まるか把握できる重要な情報になる。
- ・左右岸バランスが悪い箇所は、堤防強化も重要だが河道内の樹木管理なども合わせて考えていく必要がある。

### 参加者

氏名	役職
小松 寿	分科会長
鈴木 勇治	分科会副会長
柏谷 稔	
鹿子沢 一衛	
口澤 寿	
斉藤 喜浩	
佐々木 良浩	
白根 直樹	
横山 喜代太	

## 講習会

令和7年度河川管理・ダム管理・流量観測講習会を開催しました。

河川管理・流量観測講習会については、(一社)全国土木施工管理技士連合会の継続学習制度(CPDS)の方は3unit、(一財)河川技術者教育振興機構の継続学習制度(CPD)に加入されている方には12単位が付与されます。

### I. 河川管理講習会

1. 日時：令和7年10月23日(木) 13時～16時 仙台会場  
令和7年11月6日(木) 13時～16時 盛岡会場
2. 場所：宮城県建設産業会館  
いわて県民情報交流センター(アイーナ盛岡)
3. 受講者：仙台 38名 盛岡 25名 計63名
4. 講習内容

- 1) 講話 「河川に関する最近の話題」
- 2) 講習 (1) 河川管理施設点検の高度化について  
(2) 河川管理のポイント、今必要なアプローチを考える  
(3) 質疑応答



### II. 流量観測講習会

1. 日時：令和7年10月10日(金) 13時～16時
2. 場所：宮城県建設産業会館
3. 受講者：56名
4. 講習内容

- 1) 講話 「河川に関する最近の話題」
- 2) 講習 (1) 流量観測の留意点について  
(2) 流量観測技術の高度化について  
(3) 質疑応答



## ダム管理講習会

1. 日 時：令和7年11月19日（水）13時～16時 盛岡会場  
令和7年11月28日（金）13時～16時 仙台会場
2. 場 所：いわて県民情報交流センター(アイーナ盛岡)  
宮城県建設産業会館
3. 受講者：盛岡会場 23名  
仙台会場 37名 計 59名
4. 講習内容
  - 1) 講 話 「ダム管理に関する最近の話題」
  - 2) 講 習 (1) 土木技術者としてのダム管理について  
(2) SDGs を取り入れた維持管理による地域連携  
(3) 質疑応答



## 谷田 広樹氏 2025年度土木学会 インフラメンテナンス エキスパート賞授賞

当研究会会員、谷田 広樹氏（ダム管理分科会長）におかれましては、このほど2025年度土木学会 インフラメンテナンス エキスパート賞を授賞されました。



（受賞理由）ダムという土木、電気通信、機械設備等の複合構造物に対して幅広い知識が求められるインフラメンテナンスにあたり、ダムの設計・工事・管理に至る過程の中で、ダム技術者である国土交通省地方整備局・地方公共団体職員及び委託技術者等の幅広い人材の育成や技術力向上のための精力的な活動を行い、ダムの適切なインフラメンテナンス推進に対して大きく寄与した。

### インフラメンテナンス賞

土木学会では、2021年度よりインフラメンテナンス総合委員会にて「インフラメンテナンス分野の表彰制度」を創設、この表彰制度は、インフラメンテナンス分野に特化し、インフラメンテナンスに関連する優れたプロジェクト（事業）、人・団体（技術者、オペレーター、管理者等）、個別要素技術（点検・診断、施工方法、材料等）および論文（実践的研究）を評価し、共有することによりメンテナンス関係者のインセンティブを高めることを目的としております。

### 編集後記

今年度も河川部と各分科会との意見交換会が開催されました、会議を通じて現役職員とOB各位の交流が深まったことと存じます。意見交換会に向け、ご尽力いただいた皆様に感謝申し上げます。

なんとか年度内に会報発行ができました。会員の皆さまには、今後ともご支援・ご協力のほどよろしく願いいたします。